

# 倫理分野

## 第1章. 自分らしく生きる

### 1. 青年期とは

#### 【青年期の出現】

※昔は青年期はなかった。

\_\_\_\_\_ (身体に性的特徴がより強くあらわれること) を迎えるとまもなく、  
\_\_\_\_\_ (\_\_\_\_\_) をへて「子供」から「大人」に仲間入りをした。  
↳ ……人がある集団に加入するにあたって行われる儀式

⇓

現代…身分制度の崩壊、職業選択の自由。知識・技術のレベルも高い。

→ 一人前の大人になるための準備期間が必要。

- ◎ \_\_\_\_\_ (ユダヤ系ドイツ人→アメリカ、1902-94、発達心理学)  
\_\_\_\_\_ (義務猶予期間)  
青年期は、大人としての義務を果たすことを猶予され  
自立に向けた準備をする期間  
→ 近年はこの期間が延長されてきている

#### 【自我のめざめと第二の誕生】

“\_\_\_\_\_” ……「自分」を自分で意識したり、「自分」と「自分以外」を区別したり、  
自分を構成する要素をひとまとめにして1個の「自分」を作り上げたり、  
自分の感情・行動などをコントロールする、などという心の働き

- ◎ \_\_\_\_\_ (フランス、1712-78)  
“\_\_\_\_\_” ……著書『\_\_\_\_\_』で青年期を表現したことば  
「私達はいわば2回この世に生まれる。1回目は存在するために。  
2回目は生きるために。はじめは人間に生まれ、次には男性か女性に生まれる。」

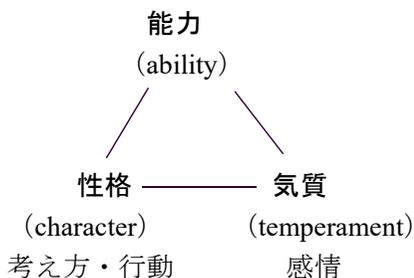
※自我のめざめ…自分を強く意識すると同時に、周囲に対する批判意識も強くなる  
→ “\_\_\_\_\_” ……親や社会の価値観に否定的になりこれに反抗する

- ◎ \_\_\_\_\_ (ドイツ、1890-1947)  
・ \_\_\_\_\_ (marginal man、周辺人、\_\_\_\_\_, marginal = 周辺の)  
大人の中に入っても、子供の中に入っても隅にいるしかない青年

## 2. 自己形成の課題(1)

### 【パーソナリティの形成】

※ \_\_\_\_\_ (personarity、個性) ……下の3つから構成される



※「個性」は欲求の合理的実現や劣等感克服の過程で形成されていく。

◎ \_\_\_\_\_ (スイス、1875-1961)

性格を分類…… \_\_\_\_\_ 的性格、 \_\_\_\_\_ 的性格

### 【悩みと向き合って】

▶ **コンプレックス** ……不安や恐怖など、マイナスの感情を伴う体験が、心の奥底の無意識に抑圧されて固定化されたもの  
劣等感もその1つで、正しくは「劣等コンプレックス」と呼ぶ

▶ \_\_\_\_\_  
もっと親密になりたいと思いつつも、相手を傷つけることや自分が傷つくことを恐れて、なかなか適度な距離を見いだせないこと

### 【適応行動と防衛機制】

◎ \_\_\_\_\_ (米、1908-70) ……欲求階層説

- ・ 欠乏欲求 ……
  - ①. 生理的欲求 (食欲、性欲、睡眠欲など)
  - ②. 安全
  - ③. 所属・愛情
  - ④. 他者からの尊敬、自尊 (セルフ・エスティーム)
- ・ 成長欲求 ……自己実現への欲求

### <防衛機制>

▶ 欲求不満 (\_\_\_\_\_)

▶ 葛藤 (\_\_\_\_\_) ……複数の対立する欲求のどれを満たすか決められない状態

↓

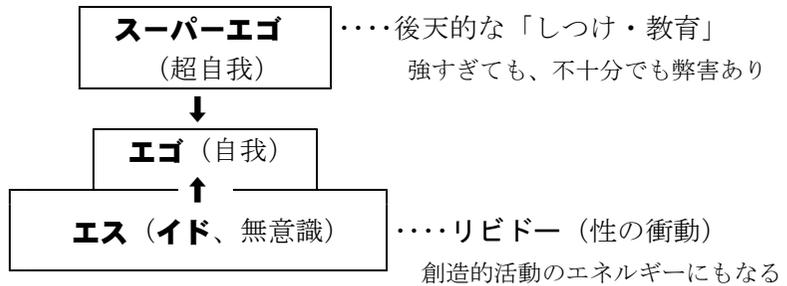
精神的不安定 → 社会的不適応状態

↑

- ①. 合理的解決……その過程で望ましい個性が形成される
- ②. 近道反応……不適切な衝動的・短絡的行動に走る (→失敗状態)
- ③. 防衛機制……無意識のもの。根本的解決にはならないことに注意。

◎ \_\_\_\_\_ (ユダヤ系オーストリア人、1856-1937)  
 著書『夢の研究』『精神分析入門』

▶ 心の構造と無意識を研究



▶ \_\_\_\_\_ (defence mechanism)

欲求不満などによる不安・緊張から自我を守る心の無意識のはたらき

	不安・苦痛のもととなる欲求などを意識の外に閉め出す
	負け惜しみ・やせ我慢のような、自分の立場の正当化。 ex. イソップ童話「きつねと葡萄」
	他人の持つ能力・業績・価値を自分が持っているように思いこむ
	自分の中の認めたくない (イヤな) 感情・特性を、相手が持っているのだ、と思いこむ
	実際とは逆の態度や行動を誇張する。 ex. 嫌いな相手に親切にする。臆病な人が強がる。
	自分の中に閉じこもり孤立。空想にふける。 神経症を起こして病気に逃げ込む など
	子供の段階に逆戻りして、安全で負担のかからない状態になる。 ex. 弟妹が生まれて親にかまってもらえない子供が甘える、など
	ある欲求が満たされない時に、別のより達成しやすい欲求を満たすこと
	上記の場合で、逆に、より社会的価値が高い活動にエネルギーを転化して発散させること

### 3. 自己形成の課題(2)

#### 【青年期の出現】

※ライフサイクル（人生周期）と \_\_\_\_\_  
各年代ごとに達成すべき課題がある。（下表はエリクソンによる）

発達段階	発達課題	失敗の状態
乳児期	基本的信頼	不信
幼児期	自律性	恥・疑惑
児童期	自主性	罪悪感
学童期	生産・勤勉性	劣等感
青年期	自我同一性 identity 確立	identity 拡散
成人期	結婚・職場等での親密さ	孤立
壮年期	若い世代を指導する世代性	停滞
老年期	人生を統合する肯定感	絶望

◎ \_\_\_\_\_（ユダヤ系ドイツ人→アメリカ、1902-94）

青年期の発達課題の中心＝「 \_\_\_\_\_（自我同一性、identity）の確立」

私は他の誰とも違う独自の存在であり、過去・現在をへて将来もずっと私であり続け、  
何らかの社会集団に所属し、一体感を持つと同時に、他者からもそう認められている  
... という主体的な感覚のこと

※ identify（動詞）＝～を（本人・同一のものであると）確認する、～の身元を確認する

→これに失敗すると \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_（無気力、無関心、無感動の状態）に陥る

※その他の学者による青年期の発達課題

ホリングワース(1886-1939)・・・心理的離乳  
\_\_\_\_\_ (1900-91)・・・職業選択準備、経済的独立の目安をつける

#### 【現代社会と青年】

- \_\_\_\_\_・・・心理学者 おこのぎけいご 小此木啓吾による  
厳しい社会的現実に戻込みし、自立を回避しモラトリアムに逃げ込む
- \_\_\_\_\_・・・大人になれない、なることを拒んで現実逃避する傾向。  
1983年、米の通俗の心理学本作家ダン・カイリーの著書から

## 4. 職業生活と社会参加

### 【職業の意義と職業選択】

- ・ 意義……経済的自立、自己実現
- ・ 自分に適した職業選択のためには           たとえば**インターンシップ**に参加する など  
⇔フリーター、ニート (NEET、Not in Education, Employment or Training)

### 【社会参加とボランティア】

- ◎アリストテレス……人間は\_\_\_\_\_である  
(Zoon Politikon、ポリス的・政治的動物)
- ◎サルトル……**社会参加** (\_\_\_\_\_, engagement、拘束) を重視  
社会に拘束 (アンガジェ) されながら、その社会に働きかけ自由を拡大させていく

### ※ボランティア (volunteer)

語源は will (英) の語源でもあるラテン語の「Volo = 意志・志願」  
自発性、無償性……最近は、実費や一定の謝礼を受ける有償ボランティアが受容されている。

- ◎ \_\_\_\_\_ (ユーゴスラヴィア→インド、1910～97)  
1952年、「死を待つ人の家」設立。  
最初、インドの人々から、そこに運び込まれるとキリスト教に改宗させられる、と誤解されていた。しかし、そこでの彼女は、まさに死ぬばかりの人の手を握りながら、「あなたの宗教で祈りなさい。私は私の言葉で祈ります。」といい、その死後はその人の宗教で葬式をあげていた。  
「愛の反対は憎しみではない。無関心である。」  
「この世の最大の不幸は、誰からも自分は必要とされていない、と感ずること。」

### 【男女共同参画社会】

- ▶ \_\_\_\_\_ (gender) ……社会的・文化的「性差」。生物学的性 (sex) とは異なる。
- ◎ \_\_\_\_\_ (仏、1908-86) ……作家。サルトルの共同生活者  
「ひとには女に生まれるのではない。女に作られるのだ。」(著書『第二の性』)  
→男性中心社会を批判、女性解放運動の思想的原点到
- ▶ \_\_\_\_\_ (positive action)  
日本において、**アファーマティブ・アクション** (積極的格差是正措置) のうち、特に女性に対しての措置のことを、「**positive discrimination** (肯定的差別)」と「**affirmative action**」とを組み合わせて造語した和製英語。  
職場での女性雇用者割合に一定の数値を設定 (\_\_\_\_\_ 制) など